

土浦に介護医療院 来年9月、協同病院跡地に

土浦市真鍋新町の土浦協同病院跡地に、民間医療法人による「介護医療院」が開設されることが12日、分かった。回復期、慢性期の患者や要介護者を受け入れる138床のリハビリ・療養型施設として、2022年9月の開院を目指す。介護医療院の新設は県内初。5年前に同病院が郊外移転して以降、課題となっていた中心街約1分の跡地活用は大きく前進する。

介護医療院を開設するの
は、牛久市で「つくばセン
トラル病院」を運営する社
会医療法人若竹会。敷地面
積約1・1分の跡地と、16
年3月の移転以降残ってい



介護医療院が開設される土浦協同病院跡＝土浦市真鍋新町

介護医療院 要介護者に対し、同一施設内で医療と介護を一体的に提供する施設。2018年4月の介護保険法などの改正法施行で新たに法定化された。急性期の治療は終えたものの、気管切開などで長期の医療的ケアが必要な人が入院する「介護療養病床」が23年度末に廃止されるのに伴い、病床の転換先として新設。従来の医療的ケアに加え、ターミナルケアや生活の場としての機能も兼ね備えているのが特徴。

た旧救急センター(地下1階、地上7階、延べ床面積約6600平方メートル)の建物を取得する。

同法人によると、旧救急センターは10月に全面改装工事を始め、介護医療院のほか、同法人の都和病院(土浦市西並木町)を移転統合して「土浦リハビリテーション病院(仮称)」を開設する。救急医療協力病院として外来診療に当たるほか、入院は回復期リハビリテーション病棟(42床)とする。介護医療院は96床とし、要介護高齢者の長期療養と生活の施設になる。

同法人は今回の土地に隣接する土浦協同病院がんセンター跡の建物も既に取得し、18年2月から「介護老人保健施設セントラル土浦」(100床)を運営している。介護医療院の開設後は、認知症専門棟を含めデイケアサービスも担い、

両施設で連携する。職員は都和病院の42人と新規採用を予定し、全体で計約200人を見込む。

土浦市は、第8次老人福祉計画と介護保険事業計画で、介護医療院の整備を位置付け、事業者を募集していた。同法人が応募し、検討を経て市が認めた。

介護医療院は、長期療養が必要な要介護者のために医療と日常生活の介護を一体的に提供する施設。国は

18年、これまでの介護保険施設に加え、介護療養型医療施設からの転換方針を示していた。県内では日立、北茨城、取手、龍ヶ崎の各市に介護療養型の転換施設として4カ所が開設されている。新設は今回が初めてで、土浦市周辺に回復期医療の施設が少ない背景があるとみられる。

土浦協同病院跡地は、同病院が同市おつ野に新築移転後、活用方法が課題だったことに加え、市内で人口が多い真鍋地区の医療福祉の充実も求められていた。

若竹会の竹島徹理事長は「地域に必要な医療と介護を提供し、地域をよみがえらせる役割を果たせば」と話した。

(綿引正雄)

園児が発見、青いカエル



常総の小貝保育園

常総市上蛇町の小貝保育園で、珍しい青色のカエルを園児が発見した。山中久司園長(64)が専門家に問い合わせたところ、非常に珍しいと分かった。園内は、見たことのないカエルの話題で持ち切り

小貝保育園の園児が見つけた青色の「ニホンアマガエル」＝常総市上蛇町

カエル人君、青き、大は鈴木いる。色は初加倉田